

みんなで考えよう
公共交通



ひまわりタクシー6年目の挑戦

問い合わせ
大竹市地域公共交通活性化協議会（自治振興課内）
☎ 592142

ひまわりタクシーは、平成23年7月1日の実証運行開始から5周年を迎えました。玖波7・8丁目地区では、実証運行から本格運行への移行を目指し、地域で取り組みを進めています。

ひまわりタクシー導入の背景

市では、平成20年3月に「大竹市地域公共交通活性化協議会」を設置。市民のための持続可能な公共交通体系を構築するため、その基本方針ならびに具体的計画を立案した「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、地域の生活交通（支線交通）を導入するための仕組みを作りました。

玖波7・8丁目地区は高台に位置する団地であり、地域の高齢化が進む中で、買物や通院のための交通手段を要望する声が高まっていました。そして、玖波7・8丁目地区を住みよい町とするために自治会を中心に、自分達で考え、生活移動手段を確保する取り組みが始まりました。

ひまわりタクシー導入までの経緯

平成22年12月
運行を希望する有志による「玖波7丁目交通体系ワーキングチーム」が発足し、検討を開始

平成23年5月
玖波7丁目の取り組みを参考に、「玖波8丁目に乗合タクシーを走らせよう会」が発足

平成23年7月
玖波7丁目で実証運行開始

平成24年1月
運行区域に玖波8丁目を編入

平成24年5月
運行区域の拡大に伴い、「ひまわりタクシー運行協議会」が発足



ひまわりタクシー運行協議会の様子

利用状況・運営状況

運行開始当初は、1月あたりの利用者が60人程度でしたが、平成26年度には95人に増えました。平成27年度は87人で、運行開始以降、初めて減少しましたが、1台あたりの利用者はほぼ例年どおりの水準となっています。

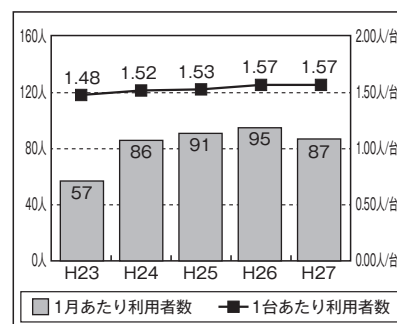
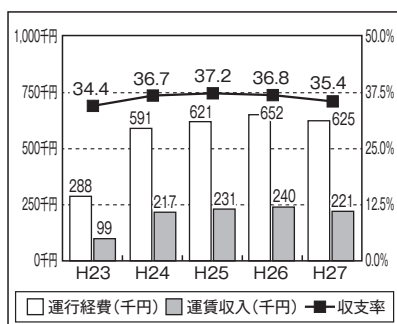
また、平成27年度の収支率は、大竹地区のタクシー料金の改定による委託料増加の影響があったものの、平成26年度と比較して1・4ポイントの微減にとどまっています。

平成28年9月末時点の累計利用者は約5千2百人で、地域の交通手段として定着してきているようです。

今後は、本格運行へ向けて、地域のニーズを反映した運行内容への見直しや潜在需要の発掘、新規利用者の開拓など、より一層の取り組みを進めます。

※ 収支率とは、運行経費に対する運賃収入の割合のことです。

ひまわりタクシーの利用状況・運営状況



交通手段にお困りの地区は

移動手段が無く困っている地域で、住民の皆さんが「自分たちで考え、創り、守り、育てる」という想いを持つ地域を応援します。少人数でも構いません。詳しくは市地域公共交通活性化協議会事務局に問い合わせください。